

つどう

まなぶ

むすぶ



よろこび

2021年3月12日号(No.28)

CONTENTS

- 公民館研究集会開かれる
- あれから10年 忘れないあの日の教訓
 - ・体験談① 『ご近所での助け合いが大切』
 - ・体験談② 『みんなで協力し合えば
多くのことができる』
 - ・体験談③ 『コミュニティを大切にすること』
- 「鹿嶋市郷土かるた」ってなあに？
- かるたを活用して市民カレッジを開催！

～コミュニティプランの推進体制を考える～

令和3年
2月27日

公民館研究集会開かれる



今回の研究集会は、これまで「まちづくり市民大会」として開催してきた事業を、コロナ禍における開催のために参加者の規模を縮小したため、事業名を「公民館研究集会」に変更して開催されたものです。

内容は、昨年度から鹿嶋市まちづくり連絡協議会の活動として取り組まれてきた、コミュニティプラン作成活動の成果発表と、令和3年度の取り組みにつなげるために、『コミュニティプランの推進体制について考える』をテーマにした講演などが行われました。

成果発表では、豊郷地区、波野地区、大同東地区の3地区からプランの原案が報告され、講師をお願いした常磐大学の砂金教授、佐々木准教授からプランに対する評価やアドバイスをいただきました。

講師の先生方からは、「人口が減少するということは、人々の絆の数も減少するということ。対策としては、絆を太くすることや、関係人口や交流人口などの外部人材を活用して、地域の絆を維持していくこと。そのために、地域と行政の共創が必要。」「市民活動は、無理をせず、喜びや達成感を大切にすること。」などのアドバイスがありました。

それぞれの地区において、地域性を生かし、共通する少子高齢社会に対応した地域福祉推進事業、安全・安心につながる事業などが検討されており、プランを拠り所とした具体的な取り組みが各地区まちづくり委員会や様々な市民活動団体によって展開され、地域のネットワーク網が形成されていくことにより、「つながりや支え合いのある地域社会」づくりが推進されていくものと大きな期待が寄せられています。

地域の安全・安心につながるプラン(市民活動計画)がもうすぐ完成!

体験談に学ぶ

平成23年3月11日 午後2時46分
東日本大震災発生

あれから10年 忘れないあの日の教訓

体験談① ▶ご近所での助け合いが大切



駒田 廣子さん
(下埜在住)

主事として勤務していた高松公民館が避難所になり、最初に避難して来られた方は、津波によってずぶ濡れでした。ピーク時は400名以上が高松公民館や隣の学校に避難されました。避難所には、赤ちゃん用の物資(粉ミルクなど)がなく、必要な物資を求めてお店を回りましたがなかなか購入することができず、なんとか購入して避難所に戻ってきたのは、出発してから3時間後でした。戻ってきたら哺乳瓶がないことに気づき、ご近所のみなさんに協力を求めたところ、すぐに借りることができました。避難所運営をとおして感じたことは、ご近所での助け合い。共助の大切さでした。

体験談② ▶みんなで協力し合えば多くのことができる



吾妻 勲さん
(神野在住)

震災直後、「余震に備えて避難をしたい」と区民からの要望があり、神野区集落センターは避難所として開設されました。約40名が避難してきたため、市役所や、近隣の商店から支援していただいた食糧などで一夜を過ごしました。この震災を契機に、神野区では毎年2月に防災訓練を行っています。訓練後は毎回、子ども会育成会の役員の方々におにぎりや豚汁を作っていただき、参加者全員で昼食をとりながら親睦を深めています。みんなで協力し合えば多くのことができますが、日頃からのお付き合いがないとむずかしいですね。ご近所同士の日頃からのお付き合いや区としての活動の大切さ、住民同士が顔のわかる関係づくりがとても重要であると感じました。

体験談③ ▶コミュニティを大切にすること



村上 昌市さん
(宮中在住)

村上 利子さん
(宮中在住)

震災直後、自宅が心配になり急いで外出先から戻りましたが、中に入れる状況ではありませんでした。自宅の前に佇んでいると、「みんな鉢形公民館に避難しているぞ」と近所の方に声を掛けてもらい、すぐに避難することにしました。避難所に着いた時には夕方だったので、避難している人たちで炊き出しの準備にとりかかりました。お米は地域の方が調達して下さり、おにぎりを握ることができました。無事に夕食をとり終

え、落ち着いたのは深夜12時頃でした。自宅に戻れる人は、一旦自宅へと戻り、戻ることができなかった私たちはご近所の方のお宅に泊めていただき、とても親切にいただきました。

10年が経ち、今振り返るとあの時は本当に怖かったです。しかし、近所の方が片付けの協力を呼び掛けてくれましたし、友人たちが色々な困りごとに協力してくれたことに感謝しています。震災によって住めなくなった自宅を建て替えたため、それまで住んでいた場所から離れることは、とても寂しかったのですが、当時のご近所のみなさんとお付き合いを今も大事にしながら暮らしています。

私たちはあの時の経験をとおして、あらゆる場所での日頃のお付き合いや家族の絆を深め、コミュニティを大切にすることが必要だと感じています。

「鹿嶋市郷土かるた」ってなあに？

令和2年7月に「鹿嶋市郷土かるた」が製作されました。

「住民の歴史や文化財への認識を高め、子どもの頃から文化財への関心を深めてほしい」と、昭和46年に製作された「文化財愛護かるた」を基本とし、「(ら) ライバルに 負けじと応援 スタジアム」、「(す) 砂浜で 塩炊き出世 文太長者」など、近・現代の鹿嶋市の歴史を新たに加えた、全45枚の読み札・絵札からなる郷土かるたです。新しい郷土かるたを楽しみながら、鹿嶋市の歴史を再確認してみませんか？



価格：1,100円(税込)

販売場所：社会教育課窓口にて

発行：鹿嶋市郷土かるた製作実行委員会

絵札デザイン：鹿嶋市美術連盟(絵画部)

かるたを活用して市民カレッジを開催！



▲第1回目の市民カレッジの様子

2月から3月にかけて市民センターにおいて、新しい郷土かるたに親しみをもってもらうことを目的とした、令和2年度後期市民カレッジ「鹿嶋の歴史を未来につなぐ！郷土かるたの学習会(全3回)」を開催しました。鹿嶋市郷土かるた完成までの取り組みや読札にまつわる鹿嶋の歴史や文化を学び、鹿島神宮を中心に歴史散策も企画しました。多くの市民の皆様にも郷土かるたを手にも、市内の名所旧跡を訪ねていただき、郷土かるたをとおして市の歴史を深く理解していただけたらと思います。